

平成 29 年度 馬場馬術審判員研修会 実施要項

日本馬術連盟馬場馬術本部

(担当：審判部)

【現 状】

日本における馬場馬術の進歩は眼を見張るものがある。例えば、全日本馬場馬術大会や CDI、国民体育大会などにおいて各クラスで 70%を超える得点率が出る現状となっている。

これは、特に近年、選手やトレーナーが海外の高度な技術に触れ、その技術を会得するとともに、海外から非常に優れたクオリティの馬が日本に輸入されそれらの人馬が競技会に参加することなどでレベルの向上につながっている。

馬場馬術審判員の果たす役割は、人馬の質の向上に大きく関わっており、正確かつ公平公正な審判技術や審判員としての心得ばかりでなく、正しい馬場馬術の運動や調教に関する豊富な経験と知識などが特に近年必要とされてきている。

各テストにおける審判員の採点やコメント、競技後のディスカッションが、人馬が今どの段階にあるのかの現状を正確に示し、また今後どの方向に向かうべきかを明確に示唆することが審判員の資質として求められている。

【目 的】

これらの現状を踏まえ

- (1) 選手やトレーナーに自己の採点について明確に説明できる審判員
- (2) 選手と馬を育てることのできる審判員

の養成を目的にして

「審判員の技術の向上」、「採点基準の統一」などを図るため、各都道府県が主催する審判講習会に加え、日本馬術連盟主催の“馬場馬術審判員研修会”を実施するものである。

研修会は講習会と異なり、意見交換の場、情報交換の場、問題点への解決の場、審判レベルのアップを図る場として、二日間実施し効果を上げることを目指す。

【内 容】

研修会は“講義”と“実技”で構成する。

講 義：

- (1) 審判規程・・・主な変更点、審判に際しての重要事項、主任審判の役割など
- (2) 採点のガイドライン・・・各運動の評価基準、トレーニングスケールなど
- (3) 馬のバイオメカニクス分野から見た
競技馬の動きのレギュラリティについて～規程と関連づけて
- (4) 審判長の役割と責任について・・・公認競技会認定員としての役割、審判員指導
- (5) スチュワードの役割と連携
- (6) 自由演技の採点について

実 技：

- (1) 実馬による採点基準の統一・・・実際の馬の演技を見て、各運動の採点を行い、ディスクッションを通じて基準の統一を図る。必要に応じてその運動を実馬で再現し採点基準の統一を確保する。また、ビデオやDVDを活用し基準統一に資する。

検定試験：2級審判員から1級審判員への昇格試験を行う。

- (1) 学科試験
- (2) 実馬での演技の採点を参考に面接試験（質疑応答形式）

【年度実施計画】

数多くの審判員が参加できるように、日本全国を4～5地区に分け、異なった時期に実施する。平成29年度は以下の日程で実施する。

平成29年度実施計画案（日程、実施場所）

- ・第1回 1月27～28日 福岡県馬術競技場（中国・四国、九州地区）
- ・第2回 2月 3～ 4日 杉谷馬事公苑（関西地区）
- ・第3回 2月24～25日 御殿場市・馬術スポーツセンター（関東、中部地区）
*ナショナルチーム強化訓練に連動して開催
- ・第4回 3月 3～ 4日 ノーザンホースパーク（北日本地区）

【受講条件及び定員】

研 修 会：馬場馬術審判員資格（S級、1級、2級）を有する者。

聴 講 生：3級審判員を有する者で将来馬場馬術審判員を志す者。

検定試験：馬場馬術2級審判員資格を有し、昇格基準を満たしたうえで、本研修会を受講する者。

定 員：約30名とする。

【受講料】

研 修 会：無 料

検定試験：10,000円

【講 師】

審判員講習会ディレクター及び必要に応じて専門性を有する学識経験者が務める。